



「読書三余」という言葉をご存知ですか？読書をするのに都合のよい三つの余暇、と意味を持つ言葉です。中国の三国時代、魏の董遇が弟子に読書を勧めると、弟子は時間が無いと嘆いたときに諭したことが始まりで、「冬の季節、夜、雨天の日」の三つが「読書三余」とされています。皆さんも、冬の雨の日の夜、ゆったりと読書をしてみてはいかがでしょうか。

【今月の展示コーナー】

「お茶と日本のおもてなし」をテーマに展示しています。
令和4年度 三重県図書館協会 図書活性化推進事業に
採択され、鈴鹿抹茶に関連する展示も行っております。



【今月の 先生おすすめ本】

「 20歳の自分に教えたいお金のきほん 」

著者 池上 彰

出版社 SB新書



この本のタイトルは「20歳の自分に…」とあるように、大学生の皆さんにはぜひ読んで欲しい一冊です。また、私のようにかつて20歳だったがそれは過去の話…という方にもオススメできる内容になっています。

著者の池上彰さんは様々なメディアで活躍される方ですが、私個人としては子どもの頃に見ていた「週刊こどもニュース」のお父さん役で世の中の出来事をわかりやすく解説していた方というイメージが強く残っており、この本を読みながら当時の感覚を思い出すほど具体的でわかりやすいものでした。

この本では経済・投資・税金・お金のことについて、それぞれの「きほん」が皆さんの身近な例を使って紹介されています。どの要素も重要ですが、特に投資と税金については将来のために理解しておくべきことが凝縮されています。恥ずかしながら、経済学を専門とする私でも完全に理解していなかったトピックがあり、とても勉強になる内容でした。

国際地域学部 佐藤惣哉 先生

「 よなかの散歩 」

著者 角田 光代

出版社 新潮文庫



紹介するのは、気軽に読めるエッセイが詰まった本です。

角田光代さんは、私と年齢が近く昭和の時代の後半の時期に青春を過ごした女性で、学生さんたちのお母さんと同年代の人です。本のなかで「食との出会いで感じたことや実践していること」「日頃の生活で考えること」「1年間の行事で楽しみにしていること」「旅で遭遇する喜びや驚いたこと」など、いろんな人との出会いを通して思ったことのエッセイが綴られています。著者は、正直に自分の感性で書いています。時々写真などもあり、情景を浮かべながら楽しめます。自分と似ていることもあり、くすっと笑ってしまうこともあります。

秋の夜長、本のなかでもいろんな出会いができます。私も実際の出会いだけでなく、本のなかでの出会いも楽しみに生きています。皆さんも、一緒に楽しみませんか。

こども教育学部 市川理恵子 先生

※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※図書館の一般の方向けの開放を再開しております。引き続き「マスクの着用、入館時の手指の消毒、検温、記名、できるだけ短時間での滞在」にご協力くださいますようお願いいたします。